

2020.11.11 基本政策懇談会

# 社会経済構造から考える物流

東京女子大学 現代教養学部  
二村 真理子

# 輸送は派生的な性格を有する

- ▶ 原則として輸送需要とは本源的需要を実現するための派生的需要という位置づけにある。
- ▶ 社会経済の変化によって本源的需要に変化が生じれば、それに応じた変化が必要とされる。

# 物流をめぐる社会経済の動き

- ▶ 人口減少・少子高齢社会の到来
- ▶ 単身世帯の増加、共働き家庭の増加（女性活躍）、働き方改革
- ▶ E C市場の拡大
- ▶ 災害リスクの高まり
- ▶ 地球環境問題・エネルギー制約
- ▶ 社会資本の在り方 インフラ老朽化・首都圏3環状道路の整備
- ▶ 地方創生
- ▶ デジタルトランスフォーメーション政策
- ▶ with コロナ時代の到来

# 人口減少／少子高齢社会

- ▶ 労働力不足
  - ⇒現場の労働力不足（ex. トラックドライバーの不足）
  - 物流人材の不足（管理者側の人材不足）
- ▶ 地方部における人口密度の低下、過疎地の発生
  - ⇒商店の撤退による買い物弱者の発生
  - 配送効率の低下の問題

# 人口動態・居住形態・生活実態の変化 ⇒ EC市場の拡大

- ▶ 単身世帯、共働き家族の増加
  - ⇒ ネット通販市場の拡大
  - ⇒ 宅配取扱量の飛躍的な増加
  - ⇒ 再配達増加
- ▶ **コロナ禍**の緊急事態宣言， with コロナの時代
  - ⇒ ネット通販のさらなる拡大
  - ⇒ 宅配取扱量のさらなる増加
  - ⇒ ただし、再配達は減少

# 災害リスク／地球環境問題

- ▶ 災害リスクの高まり・・・災害の激甚化

東日本大震災の際の物流の寸断

生活物資、サプライチェーンの寸断

- + **コロナ禍**

⇒ メーカーが在庫を多く持つ傾向 + 生産拠点の国内回帰？

- ▶ 地球環境問題・・・パリ協定の目標の履行

(2013年度比26%削減)

# 社会資本と物流

- ▶ 近年の道路計画 . . . . . 新たな広域道路ネットワーク
- ▶ トラックの大型化、自動化を実現するためのインフラ整備
- ▶ 中継輸送の拠点、駐車場の確保（数量、大型車用）のための支援
- ▶ 鉄道貨物輸送の効率的活用、ボトルネックの解消のための技術開発、投資支援
- ▶ 港湾地域における情報通信を活用促進のためのソフトインフラの整備

# 解決の方向性：物流効率化

- ▶ 標準化、共通化による効率的運用  
ex. 伝票の共通化による電子化の進展 / パレットや外箱の規格化
  - ▶ 未利用資源の活用  
ex. 貨客混載 / 積載率の向上
  - ▶ 新技術の活用  
ex. ダブル連結トラック / 自動運転 / ドローンの活用
  - ▶ 商慣行の見直し、荷役の機械化 他
- ⇒ データを活用したマクロ的視点からの対応  
政策支援、規制の見直し、環境整備

# コロナ禍における物流に対する視線

- ▶ コロナ禍にあっても貨物は動く。
  - 新幹線、高速バスによる貨客混載の取り組み
  - 航空会社は国際貨物で赤字幅を縮小
  - 宅配便の増加
- ▶ コロナ禍にあっても物流は止めてはならない。
  - エッセンシャルワーカーとしての重要性の認識
  - ただし、県をまたぐトラックに対する目
- ▶ 物流現場におけるコロナ罹患、クラスター発生の懸念

# コロナ禍にあっても貨物は動く

## — 国内貨物輸送見通し

	2019			2020		
単位 100万トン	上期	下期	計	上期	下期	計
総輸送量	2341.5	2372.5	4714.0	2118.4	2257.4	4375.8
鉄道	20.8	21.9	42.7	17.9	21.9	39.8
うちJR	14.3	15.0	29.3	12.4	15.1	27.5
自動車	2151.1	2178.0	4329.1	1958.6	2079.3	4037.9
営業用	1519.9	1533.9	3053.8	1377.9	1472.3	2850.2
自家用	631.2	644.2	1275.4	580.7	607.0	1187.7
内航海運	169.2	172.2	341.5	141.7	155.9	297.5
国内航空	0.393	0.384	0.777	0.216	0.339	0.554

# 国内貨物輸送量の見通し

- ▶ 2020年度の上期の総輸送量は対前年比9.5%減
- ▶ 最も減少率が大きいのが国内航空で45.2%減。
- ▶ 営業用自動車についても9.3%減。
- ▶ 下期についても、総輸送量は4.9%減、国内航空は11.7%減、営業用自動車は4.0%減が予想されている。
- ▶ ただし、旅客の減少に比して減少率は小さい。

# コロナ禍にあっても貨物は動く

## — 旅客会社による新幹線物流

- ▶ 2017年度以降新幹線物流のトライアルを実施。2019年6月にはJR東日本グループが新幹線で魚介類を運ぶ「鮮魚輸送」の実証実験を実施。
- ▶ これまでも地域の情報発信・PRを目的として、新幹線を活用して地域の食材や地産品を首都圏に輸送、発売するイベントを実施。
- ▶ イベントにとどまらない定期的な食材などの輸送拡大に取り組むなど、列車を活用した物流サービスをさらに拡大。「これにより、ポスト・コロナ時代における事業拡大を図ります。」（JR東日本ニュース 2020.9.3）
- ▶ 特急物流にも拡大。

# JR東日本ニュース 2020.9.3 より

- ▶ 物流企業と連携し、（地域の製品の）自宅や指定場所で受け取り可能なサービスの実現
- ▶ グループの枠を越えて、物流サービスとしての事業拡大を図る。食材、地産品だけにとどまらず、電子部品など列車の速達性を活かせる商品への拡大を図る。
- ▶ ただし「※ 列車を活用した物流サービスは、輸送品の収穫状況や列車の運行状況により、変更・中止となる場合がございます。」

# コロナ禍における航空会社の貨物輸送

- ▶ 旅客収入が激減する中、貨物は黒字。 Cf. 大韓航空
- ▶ 少なくとも、国内航空貨物量、国際航空貨物量ともに減少の見通し。
- ▶ しかし、輸送単価の上昇が収入増の結果を生んでいる。

## 参考

# 大韓航空コロナ下の黒字 7~9月、貨物収入6割超 (日本経済新聞 web版 2020.11.05)

- ▶ 韓国航空大手の大韓航空が2020年7~9月期に営業黒字を確保した。
- ▶ 大韓航空は拠点とする仁川空港がコロナ下でも「物流のハブ」として機能し、貨物輸送収入が業績を下支えした。
- ▶ 「遊休旅客機を活用し貨物スペースの供給を高めて収益を最大化した」
- ▶ 売上高は1兆5508億ウォン（約1420億円）と前年同期比53%減、営業利益は76億ウォンと94%減ったが、・・・航空事業の内訳を見ると、旅客売上高が前年同期比87%減る一方、貨物は59%増えた。単体売上高に占める貨物の割合は66%と46ポイント上昇した。
- ▶ 新型コロナの感染拡大後、航空貨物の運賃が1.5~2倍に跳ね上がった影響が大きい。
- ▶ コロナにより旅客便の往来が制限されたことで貨物積載量も大幅に減り、需給が逼迫した。
- ▶ 空輸先はIT（情報技術）製品の組み立て工場を抱える中国やベトナムなどが目立つ。
- ▶ 10月にはワクチンの航空輸送を扱うタスクチームを立ち上げた。新型コロナのワクチン需要は世界で100億回分に上ると同社は見ている。緊急性の高さから航空輸送する可能性が高い。温度管理が必要な医薬品の空輸を手掛けてきたノウハウを生かす。

# 国際航空貨物輸送量の見通し (主要4空港における輸出入貨物量の合計)

単位 千トン	2019年度			2020年度		
	上期	下期	計	上期	下期	計
合計	1174.2	1170.2	2344.4	944.8 (-19.5)	1142.8 (-2.3)	2087.6 (-11.0)
輸出	527.4	503.6	1031.0	393.1 (-25.5)	498.9 (-0.9)	892.1 (-13.5)
太平洋線	109.2	96.0	205.1	63.4	92.9	156.3
欧州線	98.9	85.8	184.7	57.6	81.5	139.1
アジア線	319.4	321.8	641.2	272.2	324.5	596.7
輸入	646.8	666.6	1313.4	551.7 (-14.7)	643.9 (-3.4)	1195.6 (-9.0)

# 航空貨物運賃上昇のロジック

## — 国際線

- ▶ 入国制限により、人流が減少し、欠航が相次ぎ、ベリーによる輸送が減少。
- ▶ 輸送のキャパシティが大幅に減少
- ▶ 一部、サプライチェーンの断絶により、新規顧客の獲得。
  - ⇒ 運賃上昇（2020年4月～5月がピーク。7月以降はほぼ横ばいだが、依然として高い水準）
- ▶ 貨物専用機に加え、旅客便の貨物利用で対応
- ▶ さらに農産品輸出に関する政策的バックアップ。（農林水産省）

# 今後の物流政策の展望

- ▶ コロナ後の状況に注視しつつも、物流効率化という方向性に変化はない
- ▶ これまでにエッセンシャルワーカーとしての重要性は社会に認知されてきた。今後も、社会からの物流に対する注目は増す
- ▶ 今後の運賃等については機関別に動向を注視する必要あり
- ▶ 特にトラックの運賃、労働力不足の問題に対しては注力する必要がある
- ▶ 今後の持続可能な物流のための支援体制の確立、規制の見直し、環境整備を行う必要がある。